

はだの歴史博物館 令和6年度 企画展

発掘調査開始 50 周年記念

桜土手古墳群 調査と活用の歩み

令和6年4月2日(火)～6月2日(日)



第一次調査現地見学会 (昭和 49(1974)年)

はじめに

はだの歴史博物館には、当初桜土手古墳公園に併設された史跡博物館「桜土手古墳展示館」として平成 2 (1990) 年にオープンした経緯があります。

桜土手古墳群では、これまでに多くの古墳が発掘調査されていますが、その最初となる第一次調査は、昭和 49(1974)年 2 月に着手されています。

今年、令和 6 (2023) 年は、それから

ちょうど 50 年の節目に当たります。

この間、多くの方々が発掘調査や保存のために尽力してきました。現在、古墳 6 基を保存した桜土手古墳公園が整備され、博物館が併設されているのも、その尽力のおかげと言えます。

この機会に、桜土手古墳群がたった半世紀をみなさんといっしょに振り返ってみましょう。

古墳群の概要

この地に古墳が造営されたのは、その出土遺物から、6世紀末から8世紀初頭の百年余りの間であると考えられています。

古墳時代の後期から終末期に相当するこの時期は、「群集墳」と言って、小規模な古墳が数多く密集するという在り方をするものが一般的であり、桜土手古墳群もその例に漏れず、水無川の右岸に35基もの古墳が築かれています。

これらの全ては横穴式石室を主体部とする円墳であり、石室の入り口を概ね南方向に向けるなどの共通した特徴を持っています。



北西から見た桜土手古墳群（第一次調査）

調査に到る経緯

昭和47（1972）年、市の誘致を受けた会社がこの地を買収し、工場が建設されることとなりました。

これに対し、市文化財保護委員が、古墳群の保存要望書を市教育委員会に提出し、この要望書を受けた教育委員会は、会社側と交渉を続けました。

2年にわたる、会社、神奈川県教育委員会、秦野市教育委員会、秦野市文化財保護委員会、考古学研究者の5者による協議の結果、会社建設予定敷地内にある25基のうち5基を現状のまま保存することとし、残りの古墳に対して記録保存のための発掘調査が行われることが決定します。



桜土手古墳群慰霊式（昭和49（1974）年）

同時に市では、敷地外の1基（33号墳）とその周辺を買収して保存し、陳列・収蔵施設を作り、会社敷地内に保存される5基と、敷地外にある古墳を市指定史跡とすることが申し合わされました。

陳列・収蔵施設は、後に桜土手古墳展示館として実現することとなります。

第一次調査

発掘調査は昭和 49 (1974) 年 2 月 12 日に着手され、断続的に昭和 52 (1977) 年 3 月まで行われ、19 基の古墳が発掘調査されました。

当時、南関東でもあまり例を見ない大規模な古墳群の調査であったため、多くの研究者の注目を集める事となり、発掘調査にも様々な大学・高校の学生・生徒が参加したほか、学校教員や地元有志など、さまざまな人々に支えられて進められました。



久保哲三氏による講演

第一次調査当時の写真を見てみると、現地見学会や、調査を担当された久保哲三氏の講演スナップなどが確認でき、各調査員の先生が、熱心に「市民のための考古学」を实践されていた事がうかがえます。

またガリ版刷りの『桜土手 神奈川県秦野市桜土手古墳調査ニュース』が発行されており、調査に参加した学生が主体となって調査の現状や秦野の遺跡などを紹介しています。

この調査ニュースは、No.14 まで発行されましたが、「常に難解な考古学的

用語をできるだけさけ、文章をよりやさしく、内容を平易であろうとした (No.12 あとがきより)」という方針に基づいたものでした。

発掘調査の参加者の誰もが問題意識を持って調査に臨み、「文化財の破壊」という尊い犠牲の代償として得る「成果」。それを可能な限り汲み取り、市民に還元するといった真摯な姿勢に学ぶべきところは多いと言えるでしょう。

第二次調査

昭和 59 (1984) 年、新神奈川計画「西のハイテクゾーン」の方向付けを受けた秦野市は、秦野市総合計画、21 世紀産業プラン「柿の木原構想」のプロジェクトの一つ「テクノパーク構想」に沿って、「秦野テクノパーク開発推進協議会」を設置します。

テクノパーク構想は、市街化区域内の工業系未利用地を整理して、先端技術系工業を主体とした企業を誘致して、既存工業の基盤を充実するとともに、秦野市の財政の安定と雇用の場の確保などを目的としたものでした。

昭和 60 (1985) 年 3 月に協議会が作成した報告書の中で、堀山下地区は、面積規模や立地条件から優先的整備地域として位置付けられ、土地利用にあたっての古墳群への配慮として、この一角を工業団地全体の環境施設として位置付け、公園整備ゾーンとし、6 基の古墳を公園内に整備する「桜土手古墳公園計画」の案が示されました。

この計画では、約 1.2ha の敷地が予定されましたが、公園区域外となる 33 号墳については現状保存を行い、その他の 24 号、25 号、34 号、38 号墳については指定を解除し、発掘調査を実施する事となりました。



第二次調査現地見学会

昭和 61 (1986) 年 3 月から開始された第二次調査では、4 基の古墳は、厚い火山灰層に被われて石室が比較的良く保存されていることが確認されました。

石室内の調査では、第一次調査で出土しなかった馬具が 38 号墳から出土、銀象眼のある大刀が 25 号墳から出土するなど、注目される成果がありました。

このほか、適切な保存方法について検討するため、古墳公園内に保存される 6 基と公園外に保存される 33 号墳の範囲確認調査も行われ、昭和 62 (1987) 年 4 月、すべての発掘調査が終了しました。

公園・展示館の整備

前述のテクノパーク構想「桜土手古墳公園計画」案の時点で引かれた図面には、まだ展示館の姿はなく、メモリアルタワーや池、池から水無川に注ぐ滝等が計画されており、ずいぶん趣を異にするものでした。

ともあれ、この計画をうけて、昭和 61 (1986) 年 9 月、秦野市文化財関係者・桜土手古墳群発掘調査団・秦野市の三者により桜土手古墳公園整備委員会が発足します。

委員会は同年から 11 月までの間に計 3 回開催され、12 月には、『(仮称)桜土手古墳公園整備基本計画書』が策定されました。

平成元 (1989) 年 4 月には、社会教育課に桜土手古墳公園準備室が設けられ、古墳公園と展示館のオープンに向けて動き出し、同年 6 月には展示館展示委員会も組織されます。

こうして公園整備と展示館建設は順調に進み平成 2 (1990) 年 11 月 3 日の開館を迎えたのでした。

以来、公園とそれに併設された博物館として様々な事業を開催し、令和 2 (2020) 年 11 月 1 日、桜土手古墳展示館は、はだの歴史博物館としてリニューアルされました。

発行 令和5年4月2日

編集 〒259-1304 神奈川県秦野市堀山下 380-3

はだの歴史博物館 Tel. 0463-87-5542 FAX 0463-87-5794